１、科目区分　　教職科目 B
　　授業科目名　音楽科教育法Ⅱ

授業づくりの考え方と方法を学ぶために

音楽教育講座　石塚真子

音楽科教育法Ⅱ（2 年後期、受講者 20 名）

１、授業の概要

（授業目的）

音楽教育の歩み、目的、内容、学習材、学びのあり方等についての基礎的な知識を得ることによって学校教育における音楽科教育の位置づけや意義について理解する。さらに、音楽の授業を展開するための基礎的な能力を身につける。

（到達目標）

⑴音楽教育の歩み、目的、学習材、学びのあり方等についての基礎的な知識について説明できる。

⑵音楽科の授業づくりにおける学習材研究を行うことができる。

⑶音楽の授業づくりを行うことができる。

関連する DP は、「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。」および「自己の学習過程を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。」である。

本授業では、音楽の授業づくりにおける教材研究に焦点を当ててとり組んだ。

２、授業内容について

第 1 回～4 回は、授業づくりにおける基本的な考え方について講義を行った。さらに、限られた授業時間のなかで、伝達すべきことを簡潔かつ適切に説明できる力を身につけるために、15 秒、30 秒、45 秒、60 秒 presentation を行った。

第 5 回～10 回は、グループごとに「ハーモニー：発声方法について」「リコーダー：頭部管を活用した授業づくりについて」「日本伝統音楽：わらべうた・民謡を基にした“つくりうた”について」の 3 つのテーマに関する教材研究を行った。

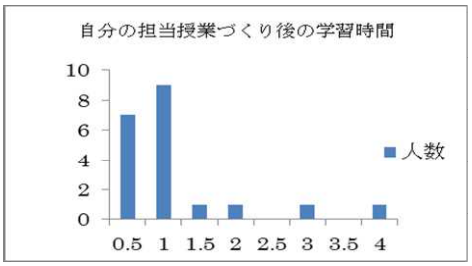
第 10 回～15 回は、「歌唱」、「合唱」、「鑑賞」、「創作」、「器楽」、「音楽史・音楽理論」、「日本伝統音楽」、「諸民族の音楽」をテーマに、2 名 1 組で授業づくりを行った。授業づくり後には研究討議を行い、そこから学んだことをフィードバックシートに記入し各自で確認できるようにした。

授業づくりにあたっては、授業外の時間に個別指導を行い、教材研究の指導に力を入れた。

３、学生の授業評価　（回答者数　20 名）

⑴「 授業づくり」後のとり組みについて

授業づくりの事前学習については、今年度も、10 時間以上かけた学生が 12 名と熱心にとり組んでいるが、事後学習不足については、昨年度からの課題であった。そこで、今年度は、フィードバックシートにコメントを記入し、各自の課題や教材研究の方法等についての指導を行った。その結果、半数以上の学生が 1 時間以上の事後学習を行うようになり、また、他のグループの授業づくりについても各自の課題に基づいて教材研究を行ったという回答を得ることができた。



⑵教材研究について

教材研究ついては、「知らなかったことがたくさんあり、また、時代背景も知ることによって、音楽が今とは全く異なる環境でつくられたことがわかった。そして、それが今日までうたわれていることもすごいと感じた。」、「教材研究を通して、クラシック音楽と民族音楽の関連性について学ぶことができた。」、「授業で使う和楽器についての教材研究を行う中で、他の楽器にも興味がわき、楽しく研究することができました。」等、自分なりに研究を深めることができたのではないかと考える。

しかしながら、授業づくりにおいては、「まず、その量の多さに驚き、何を選び、何を授業で扱うかということを考えることにとまどいました。また、教材研究で得た知識を全て伝えたくなり、多くをつめ込んでしまいました。」が現況であった。

教材研究を授業づくりにおいて効果的に活用できるまでには至らなかったが、音楽の授業づくりにおける教材研究の重要性については理解できたと考える。